

2005 年
～ 2008 年
私が選ぶ
特集

心の扉



当時は「若手」
広報マン！
T.T

運動会での一コマ。
少年と地域の参加者が共にゴール。

フェンスのない少年院
(No73 2008.12.17 発行)

から大きく見せようとしていた少年、自暴自棄になり、自分や人を傷つけた少年であればこそ、「お兄ちゃん」と言われ、地域にわずかも受け入れられたことがうれしかったのだと知りました。

子どもは大人を見ている

フェンスも鉄格子もない少年院「有明高原寮」。地元の宮城公民館と合同で開かれている運動会取材しました。有明高原寮は、発足時から、地域との盛んな交流が受け継がれています。

紙面では、入所している少年が「運動会の終わりに、小さな子から『お兄ちゃん。さよなら』と声を掛けられたことがすごくうれしかった」と語ったエピソードを紹介しました。幼いころから親の愛情に恵まれず、「あなたはダメな子、いけない子」とさんざん否定され、それを認めるのが苦しい

当時の法務教官の先生は、「教育は、する側、される側の信頼関係がなければ全然存在しないに等しい」と話していました。例えば、乳幼児期には、親に抱かれたり、世話されたりするうちに、赤ちゃんは、他者への信頼感をしっかりと身に付けるのだそうです。小さなころに信頼感を身に付けられなかった少年たちは、地区の運動会を通じて、その埋め合わせをしており、それをさりげなく支えようとする宮城地域の皆さんの態度や姿勢に心打たれました。子どもたちは、言葉ではなく、大人たちの背中から多くを感じ取っていると改めて思いました。

次は、割とベテラン！
K.O

2009 年
～ 2012 年
私が選ぶ
特集

自分に合った「場」を見つける

人と人とが触れ合い、助け合う機会が減っていると言われる現代社会。地域で交流する機会が減る中、市民がつくった3つの「場」を取材した特集です。地域の高齢男性が集まる場、介護に悩みを抱える人が集まる場、子ども達に遊び場を提供する場を紹介しています。参加者の表情やエピソードに関係の深いものの写真を大きく使いついて、活動の雰囲気伝わってきます。

記事を読み、自分が退職した後について考えてみました。家族以外とどの程度の頻度で交流する機会



地域の皆さんとマージャンを楽しむ参加者

「場」を求めて
(No94 2009.12.17 発行)

会があるのか…、親しい友人達が引越したら…、誰に相談したら良いか分からない悩みが生じたら…。そんな時に気軽に参加できる「場」があることは、その地域に住み続けたいと思える要素の一つではないでしょうか。現在も市内ではさまざまな集まりがあります。積極的に参加して自分に合った「場」を見つけてみてはいかがでしょうか。

地域の「場」、区への加入を

区は市民の最も身近なコミュニティ組織です。各地で災害が発生する中、地域内で「顔の見える関係」をつくり、絆を深め、助け合える関係を築くことが、いざという時に心強い支えとなります。地域の皆さんと交流する「場」ともなりますので、未加入のみなさんも、ぜひ加入を検討してみてください。

次頁は、
まだまだ勉強中！ K.U

300

祝

広報あづみの
300号

市民の皆さんと行政をつなぐ

おかげさまで創刊から300号

「広報あづみの」は、市が制作している情報誌で、原則月2回、第1水曜日に「お知らせ版」、第3水曜日に「通常版」を発行しています。創刊から現在まで、市からの大切な情報が皆さんのお手元に届くよう、新聞折り込みまたはポスティングにより各世帯へ配布しています。

この度、市民の皆さんに支えられ、創刊号（平成17年10月20日発行）から数え、記念すべき300号を迎えることができました。

今月号では、300号記念特集として、「広報あづみの」の歴史を、創刊号や特集を制作した担当者、そして現在の担当者が当時の特集記事を通して振り返ります。また、広報紙の読者である市民の皆さんの声を紹介します。

ゼロ
「安曇野0年」～新しい歩みを始めた安曇野～

創刊号は、新市誕生を祝うカウントダウンイベントから誕生の瞬間、安曇野市として動き始めた様子を掲載しました。市民に分かりやすく情報を伝え、市民と行政をつなぐ役割を果たすことを目指し、創刊号の発行に向けて、夜遅くまで編集作業に取り組みました。さまざまな苦労や困難もありましたが、多くの皆さんの協力で発行でき、ほっとしたのを覚えています。

当時は、日々取材や紙面づくりに追われる日々でしたが、取材先で出会う市民の皆さんに元気をもらい、発行することができました。多くの皆さんの支えのもと、広報300号の発行を迎えたことに感謝するとともに、その一部を担うことができたことは、私にとってかけがえのない貴重な経験です。

2005 年
10月20日発行
創刊号
担当者コメント

